

全ての児童生徒の豊かな学びをはぐくむ 授業づくりスタートブック

～多様な学びの場における日々の授業づくりの充実に向けて～



小・中学校や高等学校における通常の学級，通級指導教室，特別支援学級で学習する全ての児童生徒の豊かな学びをはぐくむには，日々の授業を充実させることが大切です。

そこで県では，小・中学校及び高等学校の協力校におけるそれぞれの学びの場において，日々の授業づくりに効果的だった実践（学習活動や手立て，それに伴う児童生徒の様子）を，導入・展開・終末に分けて整理し，リーフレットにまとめました。

本リーフレットは授業づくりのスタートブックです。日々の授業の計画を立てたり，授業を行った後に改善したりする際に御活用ください。

令和6年3月

鹿児島県教育委員会



小・中学校「通常の学級」編



導 入	<p>導入時の実践例①</p> <p>前時の学習を想起する活動を設定する。</p> <p>既習事項のポイントを、教室内の学習コーナーに掲示し、導入時にそこから復習問題を出題するようにしました。 その結果、日頃から学習コーナーを見るようになり、前時の学習を自ら復習する意識が高まりました。</p>	<p>導入時の実践例②</p> <p>学習の流れを把握できるようにする。</p> <p>本時の学習内容や時間配分等の授業の流れをホワイトボード等に提示し、導入時に確認するようにしました。 見通しをもつことで、安心感をもって参加する姿や、好きな活動を励みに苦手を活動を頑張る姿が見られました。</p>
	<p>展開時の実践例①</p>  <p>自分に合った学び方を選び、学習に取り組めるようにする。</p> <p>調べ学習では、児童生徒の学び方に合わせて、実物や図鑑、タブレット型端末等を準備し、自分で選択して学習課題に取り組むことができるようにしました。 自分の得意な方法で学習できることで、疑問に感じたことを次々と調べ、分かりやすくまとめていました。</p>	<p>展開時の実践例②</p>  <p>話し合い活動では、自分の考えを書いたものを互いに見ながら行うことができるようにする。</p> <p>話し合い活動では、ホワイトボードや付箋、タブレット型端末等を使って互いの考えを可視化し、ペア、グループ、学級全体で意見の交流を行いました。 自分や友達の考えが見えることで、比較したり修正したりしやすくなり、自信をもって話し合い活動に参加していました。</p>
終 末	<p>終末時の実践例</p> 	<p>学習を振り返り、確認問題に取り組む活動を設定する。</p> <p>本時で取り扱った学習内容等の理解の程度を把握するために、確認問題を解いたり、学んだことを友達に説明したりする活動を設定しました。 できるようになったこと、十分に理解していないことが明確になり、十分に理解していないことについては、教室内の学習コーナーに掲示したり、次時に復習問題として取り扱ったりして学習内容の確実な定着を図りました。</p>



「通常の学級」におけるワンポイントアドバイス

- 黒板周りの掲示物を精選することで、児童生徒の注意集中が持続しやすくなります。
- 学習におけるポイントや学級全体のルール等を書いて掲示することで、いつでも自分で見て確認できるようになります。
- 授業の途中で、意図的に体を動かす活動（席を移動して話し合う、用具等を取りに行く等）を取り入れることで、気持ちの切り替えにつながり、集中を持続して学習に参加できます。



小・中学校「通級指導教室」(自立活動)編



導入	<p>導入時の実践例①</p>	<p>導入時の実践例②</p>
	<p>自分の目標と自立活動とのつながりを教師と一緒に探る活動を設定する。</p> <p>「～になりたい、～したい」等の自分の目標を達成するために、通級指導教室で高めたい力を教師と一緒に考え、共有する活動に取り組みました。</p> <p>その結果、通級指導教室での学習に前向きに取り組む姿につながりました。</p>	<p>生活を振り返り、本日のめあてを話し合い、学習内容を確認する活動を設定する。</p> <p>在籍学級や家庭での生活について、連絡帳を見ながら良かった点、頑張った点を中心に振り返り、本日のめあてを話し合って決めるようにしました。</p> <p>その結果、何をすることが明確になり、主体的に活動に取り組んでいました。</p>
展開	<p>展開時の実践例</p> 	<p>興味・関心があることを取り入れた活動を設定するとともに、準備や片付け等も自ら行うことができるようにする。</p> <p>ゲーム的要素を取り入れる等、児童生徒の興味・関心を踏まえて活動を設定しました。また、活動に必要な物は、教師が全て準備するのではなく、自分で何が必要か考えたり、教師と一緒に作ったり、どこにあるか教師に質問したりする場面を意図的に設けました。</p> <p>その結果、課題の改善に向けて意欲的に取り組んだり、学習に必要な物を自ら考え、学習しやすい環境を自ら整えようとしていた姿が見られるようになりました。</p>
	終末	<p>終末時の実践例</p> 

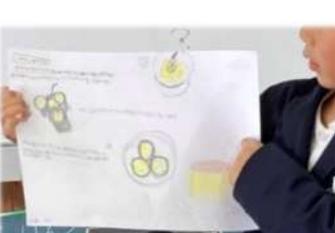
「通級指導教室」におけるワンポイントアドバイス

- 失敗を指摘して修正させる対応ではなく、どういう行動をとればよいかを具体的に教え、実行できたら褒めるなどの指導を通じて、達成感が得られるようにしましょう。
- 通級指導教室は教科の遅れを補充する場ではありません。自立活動の指導が効果的に行われるように個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成します。指導要録への記入も必要です。



小・中学校「特別支援学級（各教科）」編



導 入	<p>導入時の実践例①</p>	<p>学習の流れを確認し、見通しをもてるようにする。</p>	<p>導入時の実践例②</p>	<p>学習課題は、興味・関心をもてるように工夫して設定する。</p>
	<p>複数学年の児童生徒が在籍する場合、教師と一緒に学習する活動と、個別で学習する活動の流れをホワイトボードに書いて提示するようにしました。</p> <p>その結果、教師と学習したことを活用し、一人で課題に取り組む姿が見られました。</p>	<p>学習課題は、児童生徒が興味・関心をもてるように、好きなキャラクターを用いたり、生活場面を想定したりするなど、工夫して設定しました。</p> <p>その結果、意欲的に課題に取り組む姿や、学習したことを日常生活に生かそうとする姿につながりました。</p>		
展 開	<p>展開時の実践例</p>		<p>具体物や半具体物など学び方に合わせて教材等を準備したり、多様な感覚を働かせて学習できるようにしたりする。</p>	<p>学習課題に取り組む場面では、一人一人の学び方に合わせて、具体物や半具体物（ブロック等）、タブレット型端末等を準備しました。併せて、多様な感覚（見る、聞く、動く、触る、言う、書く、匂いを嗅ぐ等）を働かせて学習できるように支援しました。</p> <p>その結果、自分に合った学び方で学習できることで、集中して取り組む姿が見られました。また、児童生徒の「学び方は一人一人違うこと」「課題解決には様々な方法があること」という認識が深まりました。</p>
		<p>自分に分かりやすい方法でまとめられるようにする。</p> <p>まとめの場面では、「図で表す」、「表に整理する」、「語呂合わせを考える」など、自分に分かりやすい方法でノート等にまとめることができるようにしました。</p> <p>その結果、自分からノート等を開いて、復習したりテストに向けた勉強に取り組んだりする姿が見られました。</p>		
終 末	<p>終末時の実践例</p>			



「特別支援学級」におけるワンポイントアドバイス

- 特別支援学級では、自立活動の指導を必ず行います。自立活動の指導と各教科の学習は、密接な関連をもたせることが重要です。例えば、自立活動の指導で「イライラしたときに深呼吸をする」活動に取り組んだ場合、各教科の学習場面等でも活用・発揮できるように、「机に深呼吸のイラストを掲示して、自立活動で取り組んだことを思い出せるようにする」などの方法が考えられます。
- 交流先の学級において、授業内容を理解し、達成感をもちながら学習活動に参加できる姿が多く確認されるようになった際は、校内委員会で通常の学級や通級指導教室に学びの場を変更することを検討しましょう。



高等学校「通級指導教室」(自立活動)編



導 入	<p>導入時の実践例①</p> <p>アイスブレイクを行う。</p> <p>授業は、まず、ゲームやクイズ、運動などのアイスブレイクから行うようにしました。</p> <p>緊張がほぐれ、教師とリラックスして話ができるなど、安心して学習に取り組む姿につながりました。</p>	<p>導入時の実践例②</p> <p>授業と「なりたい自分(夢)」との関連を確認する活動を設定する。</p> <p>毎時間、「なりたい自分(夢)」と通級指導教室での学習との関連について確認しました。</p> <p>その結果、明確に目的意識をもって学習に取り組むことができました。</p>
	<p>展開時の実践例①</p> 	<p>日々の記録を分析して、これから身に付けたいことを明確にする活動を設定する。</p> <p>記入した日々の記録を基にして、自分の思考や行動の特徴、パターン等を分析し、これから身に付けていきたいことやその方法を教師と話し合っ決めてるようにしました。</p> <p>その結果、自分の特徴やよさを理解したり、課題の改善に主体的に取り組んだりする姿につながりました。</p>
展 開	<p>展開時の実践例②</p> 	<p>日常生活を想定した場面において練習する活動を設定する。</p> <p>日々の記録を分析して導き出した、これから身に付けていきたいことに具体的にに取り組むことができるように、日常生活を想定した場面を設定し、練習しました。練習して気付いたことはメモに取るようにしました。</p> <p>このような活動を行うことで、今後の取組に自信をもって臨むことができました。</p>
終 末	<p>終末時の実践例</p> 	<p>自己評価し、今後の取組を確認する活動を設定する。</p> <p>授業で取り組んだ活動に対して、自己(他者)評価を行ったり、今後取り組むこと(目標や方法等)を教師と確認したりしました。</p> <p>できている自分を認識できたことで自信が高まり、期待感をもって取り組もうとする姿につながりました。</p>

👉「通級指導教室」におけるワンポイントアドバイス

自立活動は、生徒の実態を多面的に把握することが大切です。その方法の一つとして、通級担当者、生徒と関わりのある教師、保護者等に、生徒の「得意なこと」「苦手なこと」等を付箋紙に書いてもらい、自立活動の6区分で整理することが挙げられます。回覧等ですぐに取り組めます。



特別支援学級と交流学級との連携に関するQ&A



Q 1：児童生徒の実態等を交流先の学級担任や学校内で共通理解するには、どのようにしたらよいですか。

A：特別支援学級と交流先の学級の授業を互いに参観し、児童生徒の姿を共有するようにしています。また、職員室の特別支援学級担任の座席を同じ学年部内に設けることで、日常的に情報交換を行いやすくなります。

特別支援学級のみならず、教育的支援を必要とする児童生徒の実態や必要な支援、合理的配慮等を記入した個別の指導計画や個別の教育支援計画を基にして、全職員で共通理解する会を毎学期設定しています。

Q 2：児童生徒が交流先の学級での学習に見通しをもてるようにするにはどうすればよいですか。

A：特別支援学級担任が、木曜日までに、交流先の学級担任から来週の学習計画をもらい、時間割や学習内容、持ってくる物等を確認します。その後、特別支援学級の時間割を編成し、金曜日に児童生徒に「来週の予定」として伝えています。



通級指導教室と在籍学級との連携に関するQ&A



Q 3：通級指導教室での様子を、在籍学級に知らせるにはどのような方法がありますか。

A：連絡ファイルを作成し、活動の様子を文章と写真で伝えています。授業の様子をタブレット型端末等で撮影し、見てもらうこともあります。

Q 4：通級指導教室で学んだことを在籍学級で発揮できるようにするにはどうしたらよいですか。

A：事前に、通級で学んだことを在籍学級のどの場面で発揮できるようにするかを、在籍学級の担任と話し合い、個別の指導計画に、通級での取組と在籍学級での取組の双方を書くようにしています。



初めての特別支援学級担任、通級指導教室担当者の参考資料



特別支援学級 Q&A (県総合 教育センター)	インクルーシブ教育システムの推進を目指す特別支援学級の教育課程編成・実施ガイドブック(国立特別支援教育総合研究所)	通級指導教室 Q&A(県総合教育センター)	初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド(文部科学省)	子供たちが主体的によりよく生きていく力を身に付けるために～「自立活動の指導」の充実～(県教育委員会)	指導要録記入の手引き(県教育委員会)
	 (B-371に掲載しています)				